

○議長（中村 敦君） 次は、質問順位 6 番、一つ、放課後児童クラブの時間延長について、二つ、幼児英語教育の取り組みについて、三つ、子育て支援施策として、高校生通学補助について。

以上 3 件について、6 番 天野美香君。

〔6 番 天野美香君登壇〕

○6 番（天野美香君） 6 番、市政会、天野でございます。議長の通告に従い、順次趣旨質問させていただきます。

一つ、放課後児童クラブの時間延長について。

下田小学校、稲生沢小学校と 2 か所であった放課後児童クラブですが、市内全域に拡大されまして、下田小学校校舎 1 階、稲生沢小学校校舎 2 階、稲梓小学校いきいきルーム、朝日公民館 1 階にて、朝日小・大賀茂小合同児童室、浜崎小学校東館、白浜小学校パソコン室隣の 2 階に放課後児童クラブとなり、7 校に放課後児童クラブを設けていただきありがとうございます。

開設時間等は、月曜から土曜日、日曜祝日はお休みとなり、平日においては、授業終了時から午後 5 時半まで。土曜、長期休暇が、午前 8 時半から午後 5 時半までとなっておりますが、昨今、子育て世代の保護者の 8 割以上が、育児、介護をされながら働かれている現状の中、日々のお迎え等の時間において、調整、延長を望まれる声を多く耳にしております。

そこで、お尋ねいたします。

一つ、平日の終了時間を午後 5 時半から午後 6 時、可能であれば、午後 6 時半までの延長について。

二つ、土曜日、長期休暇の開始時間を、午前 8 時半から午前 8 時に調整可能であるかについて。

三つ、朝日公民館の児童クラブは合同仕様でございますが、それによって大賀茂小の生徒はタクシー利用となっておりますが、現在の状況について

四つ、これまで時間等の延長におきまして、保護者側からの要望があったでしょうか。

以上についてお聞かせください。

二つ目、幼児英語教育の取り組みについて。

教育の場において、グローバル化を合わせ英語教育の重要性、必要性が注目され、大学受験においても必修科目とされています。また近年、幼児期からの教育においても、保護者の意識が高まり、早くから英語教育の在り方について要望される傾向が見られます。

外国人講師を派遣しますシェーンコーポレーションジャパンでは、子供が減る中、英語を教育する園に幼児が集まる傾向があると報じられています。それだけ今、今後の子供の未来に向け、保護者の英語教育への関心が高く持たれていると思われます。

一つには、早い段階からの英語の取組によって英語耳が育ち、英語を英語として理解できるようになり、5歳ぐらいまでが最もよいと言われています。

また、小学校においては、総合的な学習として外国語の導入が決定し、5、6年生の英語の必修科目が、2020年から3、4年生に引き下げられ、ますます早くからの英語教育の必要性が示されております。

下田市におきましては、歴史文化、開国のまちでもあり、他国から訪れる方、外国からの観光客も多く、黒船交流会など英語で触れ合う機会もあり、下田グローバルCITYプロジェクトの国際教育の推進にも示されているよう、外国語に対する苦手意識の克服、語学力の強化が必要とされており、小学校・中学校では、英語検定受検補助金の助成がなされております。さらに掘り下げ、幼稚園・保育園からの英語教育の取組を求めたく、市内、公立2園、私立2園の4園における早期英語教育が可能であるか。

一つ、ALT数員による英語のみの、遊びながらの外国文化の違いを学べる、ひと月に1時間授業を提案したいのですが、可能であるでしょうか。

二つ、下田市教育大綱、未来について思考する取組にある、玉川大学との連携を通した英語教育の推進が幼児にも可能であるか。

三つ、小学校で取り組んでいる黒船交流会が、幼児にも適用可能であるか。

四つ、ALT数員の派遣可能があるかをお尋ねいたします。

3点目です。子育て支援施策として、高校生通学補助についてお尋ねいたします。

世帯の年収等の制限はありますが、現在、国の高等学校就学支援金制度によって、公立及び私立高校の授業料は実質無償化となっております。しかしながら、子供の学びにおいては、授業料以外に教育費が必要です。

そこで、そこに関係する居場所となる高校へ行くために必要な交通費について注目したいと思います。

基準を下田駅とし、各学校へ通常通学定期を利用した場合のバス及び電車の料金は、今現在、下田高校、バス通学で、年間8万940円、3年間で24万2,820円。下田分校、バス通学で、年間20万5,440円、3年間で61万6,320円。松崎高校、バス通学で、年間29万6,430円、3年間で88万9,290円。稲取高校、伊豆急とバス通学で、年間22万7,390円、3年間で68万2,170

円。伊豆伊東高校、伊豆急バス通学で、年間39万4,800円、3年間で118万4,400円。

以上のように、卒業までの3年間で数十万に及ぶ差が生じ、生徒1人当たりの家庭だけではなく、兄弟関係のいる家庭におきましては、さらにこの部分の負担があり、子育てにおいて大きな課題であると思います。子供たちの学びの場に向かう通学費は、家庭内だけで解決できるものではございません。

そこで、お尋ねいたします。

教育の機会均等を保障するために必要であると考えます、高校生通学補助について、下田市は今後どのような支援をされていくか、お聞かせください。

以上3点において、よろしくお願いいたします。

以上で、趣旨質問を終わります。

○議長（中村 敦君） 当局の答弁を求めます。

教育長。

○教育長（山田貞己君） 英語教育の取組についてでございます。

議員御指摘のとおり、現在の学校教育において、英語、外国語の位置づけは大変重要で、学習指導要領でも取り扱う学年を引き下げること。また、ALTの配置を充実させること等で、子供たちがより早い時期に、日常的に英語に触れられるようになってきています。教室でも、小学生がALTや事業者の流れるような発音をごく自然な姿で聞き取る。そして、活動するという様子は、少なくとも私の時代にはなかなか見られませんでした。より低年齢期に外国語と触れ合う機会があることは、大変貴重なことだと思っております。

玉川大学やアメリカ海軍による交流も、小学生、今年も黒船祭、通常どおり行われましたけれども、小学生は大変喜びまして、生き生きと自分たちを表現しながら触れ合い、とてもよい体験ができていますし、玉川大もアメリカ海軍も有意義な時間を過ごすことができましたということで、向こうでも歓迎されています。これがさらに幼児となると、アメリカ海軍、玉川大学、先方がどう対応できるのかとか、先方の目的に沿う交流ができ得るのかとか、特に、玉川大学はそのような視点で検討する必要があると思います。保育所や認定こども園の日課もあります。カリキュラムの対応もあります。それが可能であり、さらに受入れ側の狙いと先方の狙いが一致するというのが、このような交流の意義につながりますので、そこは十分練る必要があるものと捉えております。

外国語活動の取組につきましては、今後の国の方針もあります。それを受けながら、下田市の子供たちの実態も踏まえて探っていきたいというふうに思っております。

放課後児童クラブ、子育て支援施策等については、担当課長から申し上げます。

以上でございます。

○議長（中村 敦君） 学校教育課長。

○学校教育課長（佐々木雅昭君） それでは、私のほうからは、放課後児童クラブの関係と高校生への通学補助の関係につきましてお答え申し上げます。

現在、放課後児童クラブの開設時間でございますけれども、議員御指摘のとおり、平日は放課後から午後5時30分まで。土曜日、長期休業期間中は午前8時30分から午後5時30分までとなっております。現在の要綱上、特別な事情があると認められる場合には、土曜日、長期休業期間中は午前7時30分からの受入れが可能なほか、実施時間を午後6時まで延長することが可能となっておりますが、延長につきましては、受入れ体制も整える必要がありますほか、保護者ニーズも把握した上で検討を行ってまいりたいというふうに考えております。

次に、朝日公民館児童クラブの関係でございます。現在、大賀茂小学校の児童6人がタクシーを利用して朝日公民館に移動しております。そして、放課後児童クラブを利用しております。帰りは、保護者が朝日公民館に迎えに来ることになっておりますけれども、特に支障なく利用されているといったような状況でございます。

次に、過去に保護者側からの延長の要望があったかというようなことでございますが、特に要望書等といった形での記録はありませんけれども、保護者のニーズといった意味から、下田市教育委員会が子ども・子育て支援事業計画を策定するために実施いたしました、下田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査集計結果報告書に基づいて回答させていただいたと思いますが、第1期子ども・子育て支援事業計画を策定するために実施いたしました、平成25年度の調査におきましては、放課後児童クラブ利用者のうち、開室、閉室時間に不満とやや不満と回答した方の割合につきましては、合わせて40.5%でございました。5年後ですけれども、第2期子ども・子育て支援事業計画を策定するために実施いたしました、平成30年度の調査におきましては、不満とやや不満、こちら合わせて28.6%と下がっております。また、この平成30年度の調査におきましては、市の子育て支援に対して特に期待することといたしまして、学童保育の利用時間を延長してほしいと回答した方の割合は、未就学児の保護者で8.7%、小学生の保護者で8%という数字になってございます。

なお、今年度は第3期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けまして、下田市子ども・子育て支援に関するニーズ調査を行う予定としております。

次に、3点目の高校生に対しての通学費補助の関係でございますが、高校生への通学補助

につきましては、通学費の負担という形で考えた場合、公共交通機関での通学経費や、下宿を選択した場合の家賃との比較、また、県外高校への進学のため家族で引っ越しを選択される方も可能性として考えられるところかと思えます。

高校に通学するための負担というものが多岐にわたっておりまして、補助を行うに当たりましても、公平性、整合性の観点から、どのような形が合理的か検討することが必要ではないかというふうに考えております。また、下田市は市内に県立の高校がありますため、市内からの通学者、市外からの通学者との生徒間でのバランスも考える必要があるのではないかと考えております。

今後とも近隣市町の情報も収集しながら、引き続き研究を続けてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（中村 敦君） 6 番 天野美香君。

○6 番（天野美香君） 御回答ありがとうございました。再質問させていただきますが、一問一答でお願いいたします。

まず、1 番目の放課後児童クラブの時間の延長についてです。

支援員等のことも関連してくるかと思うんですが、そちらのほうは支援の解決策というか、そういった対策とかというのは、今現状でお困りでない、それから、何かお考えのことなどあるんでしょうか。

○議長（中村 敦君） 学校教育課長。

○学校教育課長（佐々木雅昭君） 先ほども申し上げましたけれども、やはり延長した場合には、支援員の勤務体系も考えなければならないというふうに考えております。現状におきましても、やはり人材確保、なかなか難しい状況があるというのと、延長となりますと、やはりその間の支援員の勤務体制をどうするのかといったようなことで、支援員を増やす必要があるのではないかとというようなことも問題として上がってこようかと思えます。

ましてや、現在はホームページですとかハローワークで求人をして、なかなかこれにに応じてくれる方が少ないといったような問題もございまして、人材確保の面でもかなりちょっと現段階では難しいのかなというふうなことが言えるかというふうに考えております。

以上です。

○議長（中村 敦君） 6 番 天野美香君。

○6 番（天野美香君） ありがとうございます。

ほかの市町、調べまして、民間の委託というようなこととかは、対策のほうに考えられる
お考えとかはあるんでしょうか。

○議長（中村 敦君） 学校教育課長。

○学校教育課長（佐々木雅昭君） 現実問題、他市では民間委託しているところもあり、参考
までに過去に聞いたことがあるということで、それと現状の直営でやってる経費を比較した
ところ、現状では支援員が23名ほどなんですけれども、全員が会計年度任用職員なんですけ
れども、それと民間委託等の比較をした際には、前回の比較におきましては、民間委託のほ
うが高額だったというようなことで、検討をしていないということではございません。

以上です。

○議長（中村 敦君） 6 番 天野美香君。

○6 番（天野美香君） ありがとうございます。支援員の仕事というのは、大切な子供たちを
守っていただく、本当に責任のある、労力も要るお仕事ですので、こちらのほうもなかなか
集まらないというか、そちらのほうの責任も考えましたら十分に理解できるところでありま
すが、引き続き子供たちの安全をこのまま守っていただけてますので、よろしくお願いいたします
します。

3 番に関しまして、子供たちが安全に利用していることを聞きまして安心いたしました。
ありがとうございます。保護者のアンケート、保護者からの要望の件に関しましてですけれ
ども、保護者の方も子育てする日々は大変目まぐるしく働いていらっしゃいますので、引き
続きまして、安心、余裕を持って保護者の方が対応できるような御検討をまたお願いできれ
ばと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（中村 敦君） 6 番 天野美香君。

○6 番（天野美香君） 二つ目の質問に移らせていただきます。

教育長からお返事いただきました、玉川大学と黒船交流会の件なんです、私も今年は特
に黒船祭がコロナ後であって、本当にたくさんの方々に来ていただいて感謝いたしました。
まち中にこんなに子供たちがあふれている、こんなに子供がいるのかなというぐらい、本当
ににぎやかな黒船祭で活気があふれ、触れ合いがありまして、まさに黒船祭は下田の文化で
あるんでないかと感じました。

黒船交流会なんです、私も子供が小さい頃は何度か参加させていただきました。その中
でやっぱりいつも思っておりましたのが、話せない子供も、水兵さんの手まねで何かを受け
入れようとする、そういうコミュニケーションとか、英語を話せばいいのになというよう

な、そういった子供たちの意識とかを見てまいりましたので、ぜひ、下田、開国のまちというのもありますので、小さいうちから、吸収力のあるうちから、そういった意味で、幼児英語教育の取り組みというのを提案し、お願いした次第でございます。そちらのほうも引き続き、黒船交流会で、カリキュラム等の問題もあると思いますけれども、黒船交流会、幼児が参加できるように御検討願いたいと思います。

以上です。

失礼しました。そちらのほうのカリキュラム等もあるかと思いますが、そちらが可能であるか、再度御質問させていただきます。お願いします。

○議長（中村 敦君） 教育長。

○教育長（山田貞己君） 先ほども幼児英語教育のことについては申し上げましたけれども、議員おっしゃるように、幼児期からの英語教育、外国語教育というのは、非常に私も大切だと思っております。コミュニケーション力というのが、言語だけではなくて、表情ですとか、あるいは触れ合うとか、全てにわたったコミュニケーションを考えると、英語が話せなくても、水平さんと接するだけでも、かなりのコミュニケーション力を育む意味においては重要だというふうに思います。ということは、可能であるならば、そういうことが私もできるといいなと思いますが、先ほど申し上げたとおり、お互いの狙いがあるものですから、向こうのスケジュールとね、そういうこともあるものですから、そういうことがあって、お互いの意図が合致すれば、可能かなというふうに思います。それは先ほど申し上げたとおり、練っていく必要があるというふうに思います。

それから、余談になるかもしれませんが、今年度の中学校1年生の英検、先ほど英検のお話ありましたけれども、申込みが、去年は60人ほどだったんですが、今年は90人申し込んでということで補助をいただけてますけれども、そういったことでも、小学生・中学生、英語教育ですとか、そういった外国語、あるいはグローバルということについては、非常に前向きといいますか、そのほかの活動についても、小中学生、非常に活動的にやっていますので、そういった意味においてはすごく楽しみだなと思います。その後押しをするために、先ほど申し上げたとおり、練っていききたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（中村 敦君） 6番 天野美香君。

○6番（天野美香君） ありがとうございます。ぜひこれからまたさらに引き下げまして、幼児、保育園のほうで英語教育の取組ができますことを期待いたします。

今現在、伊豆の国市では、もう既に昨年から試験的に始められて、今年からALT1名が6園を掛け持ちしまして、幼児教育、それは英語と、あと異文化に触れる環境づくりということで推進されておりますけれども、ぜひ下田もそういった環境ができることが、また定住・移住にもつながっていくのかなという点もございますので、下田市を、そうしたことで教育でも打ち出しながら、グローバルCITYプロジェクトに合わせまして、ぜひ下田から発信できるような教育の取組というものをぜひお願いしたいなと思います。

以上です。

○議長（中村 敦君） 以上で、全て終わりでよろしいですか。

○6番（天野美香君） 三つ目の再質問をさせていただきます。

子育て支援施策としての高校生通学補助を質問させていただきました。御回答いただきましたように、下宿生のことを言われましたが、平等性がないということですが、おっしゃることは十分に理解もできるのですが、年間を通して通常通学定期に対しての補助金の検討をお願いしたいということなんですが、そちらのほうはいかがでしょうか。

○議長（中村 敦君） 学校教育課長。

○学校教育課長（佐々木雅昭君） そちらの今の御質問ですが、やはり繰り返しになりますけれども、どこを通学費として捉えるかということが問題になろうかと思います。それを、定期代を補助すればいいのか。そうすると、下宿をしている方との公平性はどうなるのかといったようなバランスがあるのかなというようなことで、なかなかやはりいい答えが見つからないといったのが現状かというふうに認識しております。

以上です。

○議長（中村 敦君） 6番 天野美香君。

○6番（天野美香君） ありがとうございます。どうしてもおっしゃることは、何度も申し上げますが、分かるのですが、現在、南伊豆は、町に住所を有し、移住する生徒の補助が2分の1、伊豆市も3分の2。同じ半島の千葉県勝浦市では、人口も同様に2万人を切っておりますが、今年度より高校生通学の補助をスタートしまして、30%の補助がなされている。こうした通常通学定期に対してのものであります。先ほども申し上げましたが、この通学に対して、ほかに子育てをするには、子供を育てる経費もございますので、それと併せまして、一番課題となっていますのが、高校の定数枠の減少によって通える学校の選択肢が狭まっている現在、それによって、通う学校によって必要経費の違いが多く生じることがとても大きな問題だと思います。それに合わせて、高校の通学補助をお願いしたいと思うのですが、い

かがでしょうか。

○議長（中村 敦君） 学校教育課長。

○学校教育課長（佐々木雅昭君） すみません、補助することを否定しているわけではないんです。公平性を保つには何が必要かというようなことを検討させていただきたいということをお願いしているわけございまして、この問題につきましては、同じ会派の江田議員のほうから、令和3年の12月にも問題提起をされているところでございます。そのときからも検討のほうを続けているんですが、そういった形でバランスを取るために何が一番いいのかといった方向性がまだなかなかうまく見つけられていないといった状況だということで御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（中村 敦君） 市長。

○市長（松木正一郎君） この質問の答弁を求める者に市長と書いてあるものですから、私も一言申し上げたいと思います。

今、課長が申し上げましたのは、要は公平性とか公正、そういった問題で行政としてすごく難しいなというふうな苦しみがあるということです。それを天野議員は多分、踏まえた上でも、やっぱり何かできないものかと、工夫しませんかという、こういう問いかけであろうかと思います。例えば、経済的に苦しい家庭、こういう家庭に対して教育に関する助成をするというのは、世界共通のやり方としてあります。教育バウチャーというのをアメリカのほうがい出し、教育だけにしか使えない、教育のものに換金ができるという、バウチャー、つまり商品券みたいなのを渡すわけですね。これはアメリカでよくあった、飲んだくれのお父さんが酒に変えちゃうということを、普通にお金にしちゃうとお酒になっちゃって子供に届かないということで、教育しか使えないというバウチャーをやっていると、こういったことがあります。

通学費補助というのは、ある意味では、遠くの学校に行くための足を何とかという、そういったことであろうかと思います。先ほど申し上げましたように、経済的に苦しい家庭においては、そういったことはひょっとすると議員おっしゃるとおり、教育の機会をちゃんとみんなが平等に持てるという意味では有効かなというふうに考えます。ここのところは本当に難しく、遠くのそれじゃあ学校というのは、例えば、下田の子供たちが東京の学校に新幹線で通うとき、それを出すのかということですね。そういった様々な難しい問題でございます。私、静岡県庁にいたときに、東京から毎日新幹線で通ってる人がいて、つまり彼は東京都民

なわけです。彼か彼女か忘れましたが、東京都民で、それで静岡県からかなり高額な通勤費の補助をもらって、アップパーがあるんでそれ以外は自己負担なんですけども、本当はそれが適正だろうかというのは、やっぱりちょっと微妙かなというふうに思っていました。

これから少子化の中で、場合によっては高校も統合とか、そういうことも十分ある。あるいは縦貫道がまだまだ時間がかかりますので、遠いところの人は、例えば、リモートと併用しながらやる。教育の工夫も、つまり空間的な移動を伴わない教育の機会とか、こういったことも総合的の枠組みの中で一緒に考えていくと。ですから、通学のみというよりは、もう少し幅広い考え方が必要かもしれないなというふうに私は感じまして、ですから、市長としては、そういった教育の問題を行政の問題、つまり少子高齢化のほうの社会の持続可能性というところで、ひょっとしたら読み取れることが、何らかの解法、答えを見つけることができるかもしれないというふうに今考えてるところでございます。若干まだ時間もかかる、検討がまだしておりませんので、今日のこの御質問を機会に、今後、また改めて検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（中村 敦君） 6 番 天野美香君。

○6 番（天野美香君） 市長、ありがとうございました。

これから、この3点につきまして、また、議員になったばかりでいろいろと勉強不足たくさんございますけれども、意見書を通しながら、いろいろなことを確認し、要望していき、しっかりと努めていきたい。また、それを市民の皆様に伝えられるようにしていきたいと思っております。御答弁ありがとうございました。

以上で、質問を終わらせていただきます。

○議長（中村 敦君） これをもって、6 番 天野美香君の一般質問を終わります。